

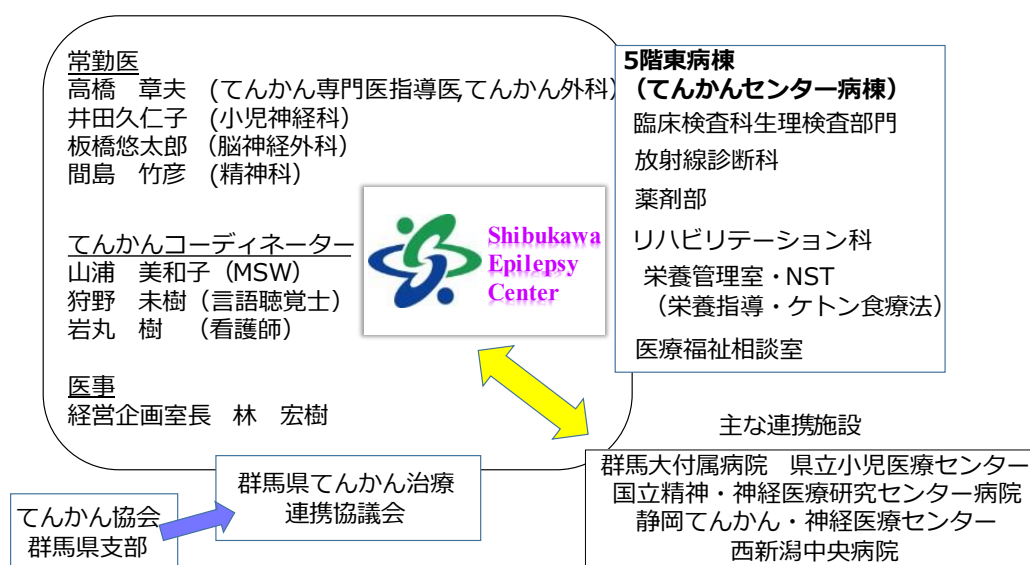
8. 2022 年度 群馬県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

独立行政法人国立病院機構渋川医療センター
てんかんセンター長 高橋 章夫

1. 概要

本年度より、昨年度までニューロモデュレーションセンターの一部であったてんかん外科部門が、てんかんの包括的診療、多職種連携を行うてんかんセンターとして独立、当院の専門疾病センターとして活動を開始した（図1）

図1. 渋川医療センターのてんかん診療体制（てんかんセンター、2022年4月～）



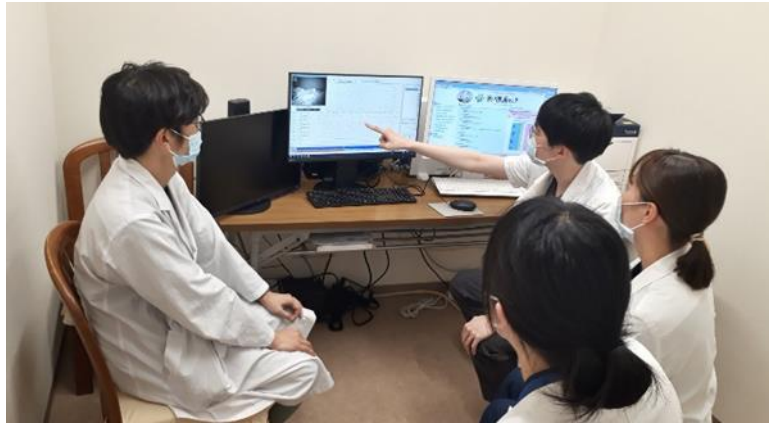
2. 当院のてんかん診療体制と特徴

てんかん診療は脳神経外科医 2、小児科医 1、精神科医 1 の 4 名の常勤医、3 名の非常勤医（脳神経外科、リハビリテーション科、脳神経内科）により行われている。群馬大学付属病院、当院と同じ渋川市内にある群馬県立小児医療センターと連携して昨年度に引き続き移行期医療に力を入れており、標準的なてんかん外科手術も行っている。てんかん診療支援コーディネーターは MSW、言語聴覚士、看護師の 3 名で構成されており、診療連携、患者生活支援について医療福祉相談室、地域連携室とともに MSW が担い、言語聴覚士、看護師はてんかん診療のサポートと、他のメディカルスタッフの教育に従事し、てんかんセンターのレベルアップを図っている。3 名とも MOSES トレーナーの資格を有しており、次年度より施行予定である（今年度開催は COVID-19 院内クラスターにより中止となった）。

設備については、てんかんセンター開設に伴い主たる業務である長時間ビデオ脳波モニタリングについての整備が行われ、てんかんセンター病棟である 5 階東病棟の 4 個室でのモニ

タリングが可能となった。データはセンター内の脳波解析室のワークステーションに送られ、同時解析ができるようになり、脳波解析の能率化、安全性の向上が図られた。月2回、院内多職種カンファレンスが行われている(図2)。

図2 院内多職種カンファレンス(月2回)



当院は地域の基幹病院であり、がん診療拠点、感染症指定病院になっているため、てんかん患者の身体的併発症についても専門的治療が可能である。今年度はCOVID-19第6波、7波の際、多くのでんかん患者が罹患、呼吸器内科と協力して抗ウイルス剤の使用や呼吸管理を行うことができた。

3. 対外活動

医療従事者向けのオープンカンファレンスを月1回WEB開催しており、県内の多くのでんかんに関わる医療従事者が参加している。

今年度は下記の2つの講演を行った。

- ・日本てんかん協会群馬支部 てんかんセミナー(患者、家族、支援者対象)
「ピアカウンセラーとして知っておきたい支援の輪」

2022年9月19日 講師 山浦美和子 MSW

- ・教育関係者向けてんかんセミナー「ブコラムの使用について」webセミナー
(県教委より依頼)

2022年12月22日 講師 井田久仁子医師

当院はてんかん学会認定研修施設であるが、研修プログラムを終了した宮城島孝昭医師(当院非常勤医、群馬大学脳神経外科助教)が群馬県で3人目のてんかん専門医、指導医となった。